

榊原さん「文系女子に有り得ない角度で告白するマン」

場所: パンケーキ屋

登場人物: 三之助(男)、麗子(女)

【ボイス録音するパート】

※麗子の部分を間隔2-3秒ほど空けて、録音してください。

麗「へえ。三之助くん、理工学部だったんだね。なんか賢そう」

三「いや、麗子ちゃんだって文学部。なんか見た目通りだね」

麗「そう？文学少女って感じ？」

三「うん。それに凄く優しくそうなところもっほいよね」

麗「え、なんで？」

三「だって文学部の人って、めちゃくちゃ筆者の気持ち考えるでしょ」

麗「筆者？ああテストの話？」

三「優しいよねえ」

麗「いやあれは出題されてるから考えてるだけで」

三「やっぱ文中にやたら比喻表現が多かったりすると思う訳？筆者、失恋してセンチメンタルなのかなあとか」

麗「いや思わないよ」

三「改行がやたら増えだしたらさ。筆者、早く上がって飲みに行きたかったのかなあ？とか」

麗「思わないよ」

三「はよ埋めないと、みたいな」

麗「なんで筆者のメンタルケアをしないといけない訳？」

三「羨ましいなあ、筆者」

麗「その筆者ってやめて。それ口語で使う人始めて見たよ」

ここまで大丈夫です。
